

「第三回新鋭評論賞」の選考を終えて

選考委員(岸本尚毅、長嶺千晶、藤本美和子…五十音順)のコメントを以下に掲載します。今後の応募者の参考になれば幸いです。

杉田氏…石鼎と学生俳句という着眼が新鮮。俳壇の史実の発掘は手柄。欲をいえば、当時の学生句会の俳句観や作例に踏み込んでほしかった。紙幅の制約もあるので難しいとは思いますが、読者としてはそこが知りたいところ。

天田氏…山田文男という俳人は、波郷と似た境涯詠でありながら、波郷よりも「馬酔木」的な存在であった。そのあたりをじつに興味深く拝読。用語の正確性など文章の仕上げに今一步の留意をお願いしたい。

平田氏…素逝と戦争という重いテーマに正面から取り組み、粘り強く論述。

鈴木氏…宗左近という着眼は新鮮。宗左近やバルトなどの俳句観をさらに噛み砕き、解きほぐすことを期待。

鶴岡氏…深見けん二と虚子の作風の比較を具体的な作品を通して行った点は手柄。

堀切氏…引用文献を適度に、効果的に使った好例。夜半自身の俳句観や江戸時代の文献などを組み合わせ、夜半の滝の句の意味を分かりやすく説明していた。

渡部氏…巷間、山口青邨の作風とされていたいくつかの要素を、海外詠という切り口で整理した。きっちりとした文章であるが、読者にとってはいささか固い感じがした。もう少し柔らかい感じで書いていただけると有難いと思った。

池田氏…「声」等のキーワードを通して楸邨の作風を探った力作。句を評する語り口が、私の感覚からすると、少し力んでいるような感じがした。もう少し肩の力を抜いてもよろしいのでは、という感想をもった。

松枝氏…やさしい、たんたんとした自然体の語り口。島村元とその当時の「ホトトギス」の空気感を想像することができた。

選考会での委員間の討論の過程では、文法や語法のちょっとした間違い、多すぎる引用、参照文献の記載漏れ、表現の力みなどが指摘される場面があった。

今後、応募される方はそのあたりにご留意いただきたい。